

第21回 与謝野晶子短歌文学賞 青春の短歌

文部科学大臣賞

電波とか道とか空は君にすでに誰かがつなげてくれているのに

奈良県広陵町立真美ヶ丘中学校 武村 美子

〔選評〕

一首の裏側に切実な思いがある。「君」につながつていないのは心だけなのだ。どんなに社会が進歩して環境が整備されても、それだけではどうしようもない。「誰か」ではなくて、〈私〉自身がなんとかするしかない。

青春の短歌賞 高校生の部

藤棚で誕生パーティーしたあとは次の授業でアリあふれ出す

大阪府立泉北高等学校 山口 南美

〔選評〕

恋愛もクラブ活動も受験も人間の社会の内側にある。でも、それがこの世の全てではない。その外側に動物や植物や虫たちが生きるもつと大きな世界がある。「誕生パーティー」と「アリ」、作者は世界の広がりを感じている。

青春の短歌賞 中学生の部

今日なにもなかったというように今歩く坂道

東京都・星美学園中学校 荒井 友海

〔選評〕

なにかがあつた日ばかりではない。なにもなかった日の大切さ。そして、「今日なにもなかったというように」を云える相手がいる喜び。短歌にしなければ消えてしまうような「今」が詠われている。

大阪府知事賞

はらまきを巻いて眠るとあたたかいあたたかいけど僕は巻かない

京都府・大谷高等学校 寺川 智尋

京都府知事賞

「ある人を特別好きになること」と辞書には記載されております

京都市立西京高等学校附属中学校 寺村 颯太

堺市教育長賞

松笠を拾って捨てる冬の朝君に渡すには小さすぎるから

大阪府立泉陽高等学校 吉野 恵里香

E H 賞

霜柱ざくざくと踏みながらどこに行けるかどこに行こうか

東京都・学習院女子中学校 井口 実紀

堺歌人クラブ賞

鍋のお肉が全部なくなると騒いでたはしおとなしくなる

大阪府・初芝富田林高等学校 山本 彩乃

与謝野晶子倶楽部賞

風の中買ってきた本のあらすじの少女は僕の夢の野に立つ

愛知県刈谷市立刈谷東中学校 木下 実音

日本ユネスコ協会連盟賞

目には目を歯には歯をつて時代ではのっぺらぼうが王さまだった

東京都・学習院女子高等学校 寺田 恵理

与謝野町長賞

冬の夜テールスープ食べていてしっぽをとられた牛を思えり

大阪府・高槻中学校 波島 栄太郎

奥出雲町長賞

月光にやがて身体も透き通り寂しさだけの私になりたい

神奈川県・日本女子大学附属高等学校 常楽 みちる

奥出雲商工会長賞

ぐちゃぐちゃな思考回路はくたびれる直列つなぎであればいいのに

静岡市立清水第七中学校 池谷 真緒

三国路 与謝野晶子紀行文学館賞

ふわふわと頭でゆれる二つ角ツインテールは現代の鬼

東京都・昭和女子大学附属昭和高等学校 高野 瑛里

晶子の街 堺山之口商店街賞

旅立つ日空が僕らを見つけたよ君が笑って僕も笑えた

東京都・星美学園高等学校 狩谷 美悠

入選Ⅱ高等学校の部

シャーペンがぶつかり合つてときめいた私の春はまだまだ青いね

昭和女子大学附属昭和高等学校 今井 響

寒空に朝日が照らす缶珈琲南にむかつて昼を迎える

兵庫県立神戸甲北高等学校 清水 敦貴

ここどこだ目を覚ましたら太陽のひかり差し込む あ病院か

京都府・大谷高等学校 西村 優花

夕暮れに他の誰かの影見たのでも影の主がいなかったの

京都府・大谷高等学校 呉羽 乃伊

愛犬の抜けた毛ついばむスズメたち何に使うか気になる午後に

岡山学芸館高等学校 神野 碧依

深緑海の中には何かいるチョークの粉の魚が泳ぐ

岡山学芸館高等学校 磯邊 朝美

教室に最初に着いて教室が広く感じた冬の日の朝

福井県立藤島高等学校 熊田 凌太

冬の朝やつとの電車君がいた私は何も見えなくなった

福井県立藤島高等学校 田中 榛名

生きる前は計算できない確率も思い返せば一分の^{いちぶん}一

福井県立藤島高等学校 水上 佳理奈

夕日さす右手の筆の黒光り澄んだ教室文字をかく音

広島県立海田高等学校 東 弥洸

春浅し空に揺蕩^{たゆた}う花びらは僕等に告げる何かの始まり

広島県立海田高等学校 表 幹也

女子だけのクラスになると変わるの床に落ちてる髪の毛の量

広島県立海田高等学校 萩原 瑠菜

君がいる私のとなりになぜだろう一瞬暗やみ目があく恐怖

広島県立海田高等学校 橋上 尚子

貴方への想いはいつも伝わらず体の奥へ溶けていくだけ

福井県・北陸高等学校 川上 絵理華

フラスコのいびつな曲線隠しても試験管には見えないもんね

桐朋女子高等学校 西尾 祐美

ぬくぬくと太陽の日で眠くなり遠くで聞こえる自分の名前

岐阜県立大垣東高等学校 高殿 遼太郎

教室であの人の席が空いてるとその日はときどき窓の外見る

滋賀県立堅田高等学校 竹口 羽瑠佳

受験票右手に握り大学へ面接待ちの廊下が長い

埼玉県立桶川西高等学校 高橋 凌介

星空に一枚だけで浮かぶ皿誰かが君を割ってしまった

群馬県高崎商業高等学校 高杉 美帆

妹の頭の雪をはらいつつ家に入ればみかんの香り

大阪府立三国丘高等学校 北村 菜々花

我が父を迎えに走る自家用車近づいていく光る空港

大阪府立三国丘高等学校 橋本 康広

春疾風カーテン纏って教室へバババと波打つ掲示プリント

大阪府立三国丘高等学校 葉山 一輝

日ざしから逃れてきて待つ赤信号もう青だよと友の呼ぶ声

大阪府立三国丘高等学校 山口 華波

自転車で暗闇の中走り出す柚子の香りがただよう冬の日

大阪府立三国丘高等学校 佐野 晴奈

一頭の仔牛に注ぐ愛だったはずのミルクを温める朝

広島県立広島高等学校 曾我部 栞

気が付けばおしよせてくる夕暮れに目を伏せた君手が震えてる

大阪府立鳳高等学校 一片 架世

真夏の夜ぼんやり家の前に立つセミと車の音だけ響く

大阪府・初芝富田林高等学校 北本 真緒

何色か居間にポツリと置くカバン私の好きなえだまめの色

大阪市立南高等学校 米森 舞奈

上出来な焼芋食べてのんびりと鳥の鳴き声眠気を誘う

東京都・晃華学園高等学校 牛山 久乃

初雪が選挙の日だということが何かを告げる合図なのか

東京都・晃華学園高等学校 本田 佳菜

明かりつけはねた毛先をなでつけてあなたに借りた小説を読む

東京都・学習院女子高等科 青山 朝海

妹と二人揺られる夜のバスふと右腕に重み感じる

東京都・学習院女子高等科 野上 結季乃

消しごむが紙をグシャリとさせるとき我的心もグシャリと潰す

東京都・学習院女子高等科 前間 愛

前に行く友のマフラー長すぎてしっぽみたいと思わずつかむ

東京都・学習院女子高等科 茂野 水晶

きりさめの渡り廊下を駆け足ではずむしぶきとゆれる水たまり

東京都・学習院女子高等科 宮本 茉椰

新学期壁に貼られるクラス替え探す名前は2つの名前

鹿児島県立武岡台高等学校 阿久根 陸

寒椿ぼとりと落ちる雪の上吐きだす息でかすんでみえる

鹿児島県立武岡台高等学校 奥 琳音

さようなら白い言葉を吐き出した雪のとけるころ君はいないから

京都府・立命館宇治高等学校 山本 愛子

バニラより抹茶アイスが好きになる宇治市の丘の校舎に通い

京都府・立命館宇治高等学校 竹山 奈津季

バスに乗り二人で向かった海岸線いまだに香るあの時の風

京都府・立命館宇治高等学校 上島 幹央

吐く息と道の鏡とくもった窓朝がだんだん白くなってきた

東京都・星美学園高等学校 高橋 結衣

遮断機に百日の恋ふきあがるすれ違い様に会釈を交わす

東京都・星美学園高等学校 福田 奈々

夕日差す呉の港をながめてる 10 分の 1 戦艦大和

東京都立府中高等学校 青柳 広基

皮ふや髪こんなもので展示されそこまでしてでも伝えたい過去

東京都立府中高等学校 木村 日菜子

好きだよと君の背中に言ってみる大きな君が小さくみえた

福岡県・久留米信愛女学院高等学校 梶原 千聖

湯布院の街を歩けば他国語が日本語までもが違って聞こえる

福岡県・久留米信愛女学院高等学校 徳吉 遥香

一人旅海辺の町を一人行く海の上にはまぼろしのまち

兵庫県立大学附属高等学校 岡崎 充志

青春という名の箱を開いたら中身はただのガラクタだった

山口県立柳井高等学校 西村 知紗

夜が明けて騒がしくなる家の中こたつの中で増えてくる足

兵庫県立尼崎小田高等学校 野村 璃久

部活動走っているとふと思うこの直線は僕のものだと

兵庫県立尼崎小田高等学校 片寄 翔太

夏の夜母がたずねるどうしたの袖はびしょ濡れ片手に金魚

大阪府立高石高等学校 網廣 萌

三つ編みを結び直しているうちに春は私を追い抜いてゆく

岐阜県・飛騨神岡高等学校 中田 璃子

「あさぼらけ」使ってみようと発音す使いどころがさっぱりわからず

愛知県立起工業高等学校 祖父江 脩真

少しだけ世界が濡れていく夜にいわせること、できるでしょうか

東京都・聖心女子学院 徳永 彩乃

恋バナは一分もたない私たちまあいっか金木犀が香ってる

静岡県立掛川西高等学校 戸塚 史織

本当は皆しあわせではありません写真の中の太陽の色

長野県松本深志高等学校 瀧澤 萌

何だって事あるごとに君はその西陽の差したような目をする

大阪女学院高等学校 江口 絢子

冷たさが何かを変えそうだったから雪の中に手つつこんでみた

東京都・明治大学付属明治高等学校 稲垣 眸

入選Ⅱ中学校の部

一時間集中しているわたしから消しゴムころげ逃げようとする

青森県三沢市立堀口中学校 箱石 かなで

本の中ぎっしりつまった文字たちにみな羽生えて飛んでゆく朝

青森県三沢市立堀口中学校 榎 海帆

雪積もり一面まっ白雪の世界誰かがそつともようをつけた

名古屋市立宝神中学校 村山 奈月

教室の窓から外を眺めれば漂ってくる夢の匂いが

兵庫県・西播朝鮮初中級学校 李 世輝

守れない下校時間の言い訳は今頃空が綺麗ですから

兵庫県・西播朝鮮初中級学校 文 瑛順

校内の水飲み場での僕と君淡い気持ちを水が運ぶよ

愛知県刈谷市立刈谷東中学校 杉本 雅治

寒い日に柚子風呂入り考える如月生まれの私の名前

愛知県刈谷市立刈谷東中学校 岡嶋 柚衣

カーテンにこぼれる光冬の朝子供の声に手袋はめる

愛知県刈谷市立刈谷東中学校 青山 太知

いつまでも冬を知らない室内犬降りしきる雪に驚き吠える

愛知県刈谷市立刈谷東中学校 遠藤 航紀

飛ぶ羽も傷つける羽も持っている責任という重りで飛べず

名古屋市立名塚中学校 藤波 尚子

新たななるインコの子ども期待したでも無精卵無精卵なり

名古屋市立名塚中学校 和田 正剛

人ごみの中にまぎれてふと思う私の背中探せるだろうか

名古屋市立名塚中学校 大平 詩織

部屋の中鶴が笑った昼下がりで遠くて近い祖母の温もり

埼玉県入間市立東金子中学校 土井 柊奈

「ただいま」とくつをはの字に午後6時やつと来たよ私の時間

埼玉県入間市立東金子中学校 霜山 杏香

弟に何して遊ぶときいてみるとひとりで遊べる遊びばかりだ

初芝富田林中学校 佐野 恵美

夏休みやることたくさんあるけれど僕の心は各駅停車

小川町立櫛台中学校 藤元 快

来世には友達同士と母に言えば「やっぱりあなたのお母さん」と答う

小川町立櫛台中学校 白根 明奈

歩くたび香ばしい音の霜柱私の朝の小さな楽しみ

小川町立櫛台中学校 櫻井 美由紀

いつまでも変わることない家の影どの日の私も迎えてくれる

京都府福知山市立夜久野中学校 衣川 真由

太陽の光一筋浴びながら校舎の裏で水仙が咲く

大阪府・高槻中学校 尾野 純暉

早起きをすればレモンのような朝書き初めをして私もさわやか

名古屋市立丸の内中学校 岩田 菜結

透き通る自然の中で植えていく土・汗・風のにおいを知った

宮城県仙台市立広瀬中学校 土浦 咲那子

空の下過去の営み垣間見る時は巡りて蝶は夢を見る

宮城県仙台市立広瀬中学校 佐藤 七海

君が今終わっちゃったと呟いた石ころ一つ蹴る帰り道

宮城県仙台市立広瀬中学校 鈴木 空

科学館時間があまり二回行くいやがる人をひっぱっていく

大阪市立友渕中学校 小池 舞

雨の音風の音さえ大きいとを感じるぐらい静かな飛鳥

大阪市長友渕中学校 川崎 友梨乃

奈良県の飛鳥の道のはしっこはヒメジョオンがたくさん咲いてる

大阪市長友渕中学校 飯原 瑞希

雪だるまうまくできない雪の玉小さい方も大きい方も

大阪市長吉西中学校 有木 琴音

あと一つあとひとつと手をのばす遠くに感じた夏のうんてい

大阪市長吉西中学校 竹中 桃実

かじかむ手ラケットにぎりひびく声寒さのように強くなりたい

大阪市長吉西中学校 岩崎 すず

軒先に連なっている水の針ししゅうの宿題はじめなさいと

東京都・学習院女子中等科 米川 萌々香

たこ上がる私の見えない所まで行きたいとこまで行かせてあげよう

東京都・学習院女子中等科 高木 愛佳

冬の月冷たい光はレントゲン私の身体をすかして通る

東京都・学習院女子中等科 貝瀬 瑠奈

先輩へ送る私の年賀状何度も見直しポストへ入れる

東京都・学習院女子中等科 長尾 紗希

帰ろっかその一言がこわいから話していたら街が笑った

東京都・学習院女子中等科 福島 理香

灰色の空に向かって吐いた息まだ消えたくないと残っている

東京都・学習院女子中等科 清水 裕子

天気図の等圧線がせまくなる動くはんいはこたつのまわり

京都府・立命館宇治中学校 片山 礼央奈

美術室みんな帰った後のことニスのおいと並ぶ顔たち

東京都・星美学園中学校 小池 堇

鉛筆は普段はとてもおとなしいテスト中だけ気性が荒い

神奈川県・鎌倉女学院中学校 杉本 美景

だんだんと目覚めはじめる人と町世界は今日も息をしている

神奈川県・鎌倉女学院中学校 大石 梨恵

絵の具混ぜ君の似顔絵描くうちに僕の気持ちもわからなくなった

神奈川県・鎌倉女学院中学校 山田 美玲奈

図書室の貸し出しカードをちらとみて君の名前をそつとなぞった

神奈川県・鎌倉女学院中学校 下垣内 優衣

雪国の冬の絵を描き思うこともう少し色が欲しいのである

新潟県燕市立吉田中学校 刑部 志歩美

かすかなる太鼓の音を聞きつけて母を急がす幼き子供

大阪市立西中学校 沖口 菜陽

弟とおずおず触れた九年前初めてかぶとを見たこどもの日

静岡市立清水第八中学校 望月 想太

台所ほとばしり出る水の音元気になった母がほほえむ

静岡市立清水第八中学校 小山 海鈴

じっと待つヒメナデシコの冬休み真白のベールもうすぐ溶ける

静岡市立清水第七中学校 大村 菜海

冬休み小さい小さいかまくらと自分と同じ背のゆきだるま

文京区立第九中学校 白幡 涼子

祖母の書く五年日記をみてみればわたしのことがたくさんあった

東京都・学習院女子中等科 梶田 稜子

来年も明日も今日も着るんだと思い続けた私の制服

東京都・学習院女子中等科 佐藤 玲香

君のさす黄色き傘が月のない闇夜を照らし色を付けゆく

鹿児島市立谷山中学校 八汐 柚月

車窓からはみ出している夕やけにちっぽけな僕は吸い込まれてゆく

大阪桐蔭中学校 山口 優映

あの人とどれほどの崖があるのだろう心のソラはまだ雪模様

大阪桐蔭中学校 伊藤 舞

ただ君に会うためだけにあるような日記を閉じて聞く除夜の鐘

大阪市立昭和中学校 阿部 千咲

通学路蜘蛛が巣をはり通れない遠回りして行くのが楽しい

静岡市立竜爪中学校 植田 夏夢

白い紙その紙の上に墨が落ち鳥の形で空飛び続け

静岡市立竜爪中学校 田代 麻理香

どこからかにおいただよい辺り見るひそかに眠るギンモクセイよ

静岡市立竜爪中学校 安間 光

それ程にセンリョウの実をついばんで尚染まらずか白鶴鴿よ

埼玉県・星野学園中学校 荻野 結

夜になる原理はわかっているけれど果てしない闇におびえて眠る

東京都立武蔵高等学校附属中学校 定久 浩介

雪つもり一人の家の静寂は優しくいじめる僕の心を

兵庫県加古川市立陵南中学校 堺 大志

われの声にふりかえるきみの首の汗しずくにひとつの世界を見たり

千葉県・渋谷教育学園幕張中学校 荻野 なつみ